

## ChatGPT に聞いてみた 北朝鮮がロシアへ派兵

最近、ロシアとウクライナ戦争に北朝鮮がロシア支援で兵を派遣した、実戦の経験を積ませることも目的としていると聞いている、全く実戦経験のない日本の自衛隊は日本を守れるか

ChatGPT:

とても重要かつ現実的な問題提起です。

結論からいえば:

現時点の自衛隊では「限定的な防衛・対応」は可能だが、全面戦争・長期戦・対国家戦のような“総力戦”には極めて厳しいと言わざるを得ません。

以下に詳しく説明します。

### ✔【1】北朝鮮がロシアを支援する目的

2024 年以降、北朝鮮はロシアに弾薬・兵器だけでなく、\*\*「志願兵や軍人の派遣」\*\*も検討・一部実施していると複数の報道があります(※ロシアが公式に認めていない場合もある)。

その目的のひとつが:

- 「実戦経験を積ませて軍の士気や能力を向上させる」こと。

これは多くの国で採用される戦略で、特に北朝鮮や中国、ロシアのような「実戦を想定した準備型軍隊」では重要な訓練の一環です。

### ✔【2】日本の自衛隊の実情: 実戦経験はゼロ

日本の自衛隊は創設(1954 年)以来、一度も「国家間戦争」を経験していません。

主な活動実績は:

- PKO(国連平和維持活動):カンボジア、南スーダンなど
- 災害派遣(国内地震・台風)
- 海賊対処(ソマリア沖など)

◆ つまり:

| 面    | 内容                    |
|------|-----------------------|
| 実戦経験 | ほぼゼロ(交戦経験なし)          |
| 指揮経験 | 戦闘指揮は理論上のみ            |
| 対国家戦 | 準備はしているが未経験           |
| 装備   | 一部は先進的だが、数や弾薬の備蓄は限られる |

## ✓【3】自衛隊は日本を「守れる」のか？

答えはこうです：

◎ 限定的な防衛(短期的・局地的な攻撃)には対応可能

✗ 全面的・長期的な国家間戦争には厳しい

◎ 強み(守れる要素)：

- 高度な訓練：特に海自(海上自衛隊)と空自(航空自衛隊)は世界的に評価が高い
- 最新装備：F-35、潜水艦、イージス艦など
- モラル・士気：規律正しく、被災地でも信頼されている

◎ 弱み(守れない要素)：

- 法的制約(専守防衛・敵基地攻撃に制限)
- 弾薬・ミサイル・燃料の備蓄が非常に少ない
- 実戦経験ゼロ(予測と現実のズレが起こりやすい)
- 指揮統制システムが平時対応向け(「危機対応型」に弱い)

## ✓【4】実戦経験はなぜ重要なのか？

実戦経験があると：

| 項目  | 実戦経験ありの軍隊     | 自衛隊(未経験)        |
|-----|---------------|-----------------|
| 判断力 | 即応・実用的        | マニュアル依存、躊躇が出やすい |
| 連携  | 修羅場を経験済み      | 理論でしか連携を知らない    |
| 士気  | 成果・損失を実感      | 訓練でしか高められない     |
| 指揮官 | 命を預かる重みを知っている | 形式・規律重視の傾向      |

## ✔【5】今後どうすべきか？(提言)

### 1. より実戦的な訓練

米軍との共同演習(離島防衛、サイバー戦含む)をさらにリアルに行う必要あり。

### 2. 装備と弾薬の備蓄強化

ミサイル・燃料・部品などが「数日で尽きる」とも言われており、ここは早急な対策が必要。

### 3. 指揮・情報体制の見直し

政府と自衛隊の指揮命令系統を迅速化・柔軟化。

### 4. 国民との連携(国民保護)

避難・支援体制、通信、経済機能維持など「国民全体を守る体制」が不可欠。

## ✔ 結論

日本の自衛隊は「規律・技術・訓練」において高い評価を得ているが、**実戦経験の欠如と弾薬・装備の不足により、大規模な侵略に対して長期間持ちこたえるのは困難。**

**実戦経験を積めない分、訓練とシミュレーション、米軍との共同作戦でどこまで補えるかがカギです。**